

今後の当別町公共施設（建築物）に関するあり方について

多くの公共施設等の老朽化が課題となっている中、公共施設等の状況を把握し、長期的な視点をもって総合的かつ計画的な管理推進のために、当町では平成28年に公共施設等総合管理計画を策定しました。

中でも公共施設（建築物）について、全ての施設を現在と同様の状態で維持していくことは大きな財政負担が伴うこと、また社会情勢や町民ニーズの変化に対応していくためには、それらに応じた規模、機能へと変化させていくことが必要であるため、公共施設等総合管理計画等を踏まえ、公共施設（建築物）の今後のあり方について、現時点での方向性を分類し整理しました。

※公共施設等総合管理計画は10カ年の計画で随時見直しを行っていくこととしています。

●各施設の今後の方向性の分類について

※施設の記載順序は建設年順としています。（以下共通とします。）

1. 建替を含めた大規模改修が必要なもの

施設老朽化が著しく耐震性の観点、施設規模や、利用状況を踏まえて判断し、建替を含めた大規模改修の検討が必要なもの。

・当別中学校 構造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造・木造 延床面積：5,184㎡ 建設年：昭和44年

平成22年に耐震改修工事を行っていますが、校舎自体は老朽化が著しい状況です。また、小中一貫教育の推進に伴い、当別小学校との一体型一貫校新設（建替え）の検討が必要です。

・役場庁舎 構造：鉄筋コンクリート造 延床面積：3,075㎡ 建設年：昭和45年

耐震診断結果より、今後安全に維持していくためには耐震改修工事が必要不可欠となります。また、庁舎自体は老朽化が進んでおり、建替えも含め耐震改修及び大規模改修の検討が必要です。

2. 用途廃止、解体の検討が必要なもの

施設老朽化、統廃合、利活用等を踏まえ、用途廃止、解体の検討が必要なもの。

・旧公民館 構造：鉄骨造 延床面積：1,259.25㎡ 建設年：昭和38年

現在は用途廃止となっており、公共施設としては利用されていません。老朽化は著しく、解体等の検討が必要です。

・配水管理所 構造：鉄筋コンクリート造 延床面積：1,548.72㎡ 建設年：昭和40年

老朽化が著しく施設規模も大きいことから、当該施設及び施設周辺への安全面を考慮して用途廃止の検討が必要です。

・町営住宅ひまわり団地 構造：コンクリートブロック造 延床面積：898.82㎡ 建設年：昭和43～45年

住宅マスタープランに基づき計画実施されています。その中で、ひまわり団地は昭和43年～46年に建設されており、竣工後46年～48年が経過していることから、用途廃止、解体に向け、平成29年度に入居者の移転を取り進めています。

・青山交流館（旧青山小学校校舎、体育館） 構造：鉄筋コンクリート造及び鉄骨造 延床面積：2,015㎡
（旧青山中学校校舎、体育館） 建設年：昭和50～53年

学校施設の統廃合に伴う用途廃止後、社会教育施設として利用していましたが、平成19年より休止中です。数年利用されていなかったため、施設に破損が見受けられることから、施設の必要性を判断したうえで、用途廃止、解体の検討が必要です。

他4施設（複数ある施設は1施設としています。）

3. 新たな施設の検討が必要なもの

様々なニーズに応じた、新たな施設の新設に向けた検討が必要なもの。

・図書館 構造・面積・建設予定年：未定

・文化センター 構造・面積・建設予定年：未定

4. 改修工事等の検討が必要なもの

その他の施設についても老朽化等により様々な改修工事等の検討が必要な時期を迎えているもの。

・当別小学校 構造：鉄筋コンクリート造 延床面積：4,844㎡ 建設年：昭和46年

・みどりヶ丘墓苑 構造：木造 延床面積：206.73㎡ 建設年：昭和51年

・白樺コミュニティセンター 構造：鉄筋コンクリート造 延床面積：1,376㎡ 建設年：昭和55年

・西当別中学校 構造：鉄筋コンクリート造 延床面積：3,810㎡ 建設年：昭和55年

・西当別小学校 構造：鉄筋コンクリート造 延床面積：4,351㎡ 建設年：昭和57年

・当別町総合体育館 構造：鉄筋コンクリート造 延床面積：4,287.94㎡ 建設年：平成元年

・西当別コミュニティセンター 構造：鉄筋コンクリート造 延床面積：2,068.3㎡ 建設年：平成9年

・当別町総合保健福祉センター 構造：鉄筋コンクリート造 延床面積：2,640㎡ 建設年：平成12年

他190施設

●各公共施設（建築物）の今後の方向性のあり方について

当別町公共施設（建築物）の今後の方向性のあり方については、「1. 建替を含めた大規模改修が必要なもの」として、建替えは既存施設の規模に捉われず、適切な規模で行い、他機能を有する施設との複合化の検討も必要です。また、他の施設については、老朽化の状況等を踏まえて、施設の有効活用を図り計画的な改修工事等が必要です。それには多くの事業費がかかることから、費用対効果を検討するために財政状況を踏まえ、省エネルギー及び再生可能エネルギーの活用、PPP及びPFI等の様々な手法を検討し、事業費を同時期に集中させることなく、更新費用の平準化を図る必要があります。

また、用途廃止をした施設についても今後の利活用を検討したうえで、解体を計画的に行うことも必要です。これらの事業の推進に当たっては、当別町で現在進めている各種計画と連動させていく必要があります。

※各種計画

- ・当別町生涯活躍のまちづくり基本構想
- ・「北の住まいるタウン」の実現に向けて（当別町）
- ・当別町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）
- ・当別町住宅マスタープラン
- etc